

安曇野建設事務所 下水道事業による整備効果事例

犀川安曇野流域下水道 安曇野市 安曇野終末処理場（消化ガス発電設備事業）

犀川安曇野流域下水道安曇野終末処理場では、平成20年度から消化タンクを稼働させており、汚泥の減容化及び臭気の軽減に効果を上げてきました。一方、減容化の過程で発生する消化ガスについては、タンクの加温用ボイラーの燃料として約4割を有効利用し、残りの約6割は余剰ガスとして燃焼廃棄していました。そこで、消化ガスを100%有効利用するため、全量を燃料として発電を行い、かつ消化タンクの加温も可能な消化ガス発電設備を整備しました。

事業概要

消化ガス発電施設工事

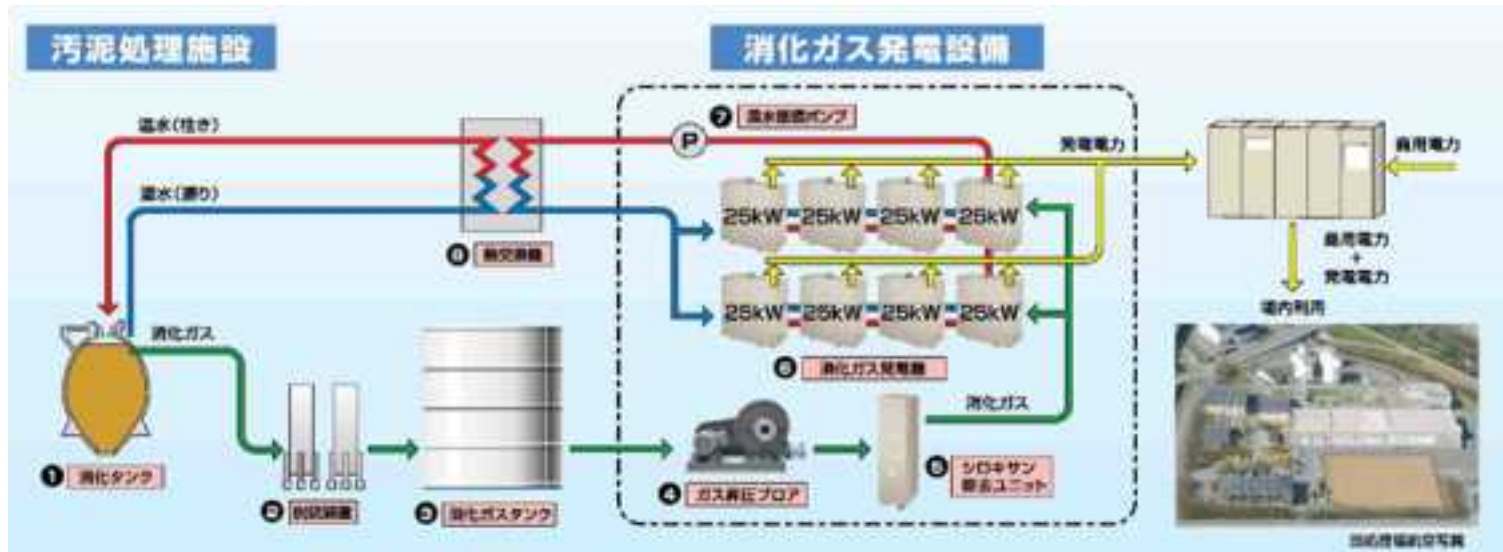
発電方式 小型ガスエンジン発電機 8台
 (発電出力 25kW×8台=200kW)

事業期間 平成23年度～平成25年度
 平成26年4月 供用開始

整備効果

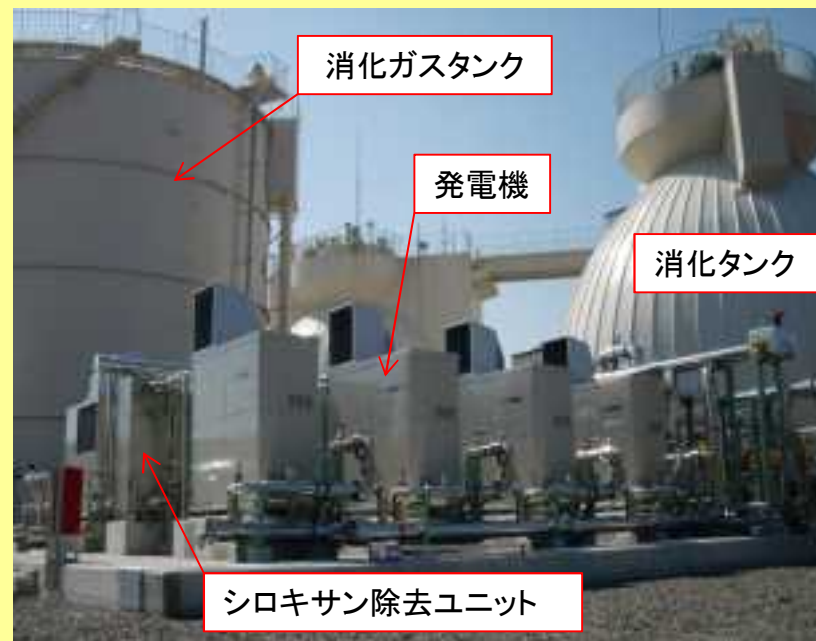
- ・今まで余剰ガスとして燃焼廃棄されていた消化ガスを100%利用することができる。
- ・発電を行うことにより、処理場で使用する全電力の約3割を賄うことができる。
- ・電力会社からの購入電力を減らすことにより、二酸化炭素排出量が年間約800t削減される。

概要図



安曇野建設事務所 下水道事業による整備効果事例

犀川安曇野流域下水道 安曇野市 安曇野終末処理場（消化ガス発電設備事業）



【その他】

[電気料金削減：約2,500万円/年間]

[二酸化炭素排出量削減：約800t/年間]